

国際競争力向上のための研究人材の養成・確保を目指して - 科学技術・学術審議会人材委員会 第二次提言概要図 -

検討の視点

第一次提言

「世界トップレベルの研究者の養成」について目指すべき人材像を明らかにしつつ、大学院博士課程の教育機能強化中心に提言

引き続き世界トップレベルの研究者の養成を図るとともに、「知」の創造から活用までを含めた我が国の国際競争力を維持・向上するため、研究人材の養成・確保について、より多角的に諸問題を分析

「知」の創造

我が国研究者全体のレベルアップ、能力発揮、適切な供給が必要

「知」の活用

技術者、支援者、知財関係等の多様な研究人材の養成・確保が必要

現状の問題点

研究人材 研究者、技術者、研究支援者のほか研究管理、普及啓蒙など研究に関わる多様な人材

知識基盤社会への移行、少子高齢化の進展と研究人材の確保

- ・知識基盤社会への移行を踏まえ、研究人材の不足感が継続して高く、引き続き、その量的・質的確保が課題
- ・急速な少子高齢化により、創造的活動の担い手である若手研究者の減少が予測され、研究活動への弊害が懸念

国際的視点から見た我が国の研究人材

- ・欧米等への研究者の渡航が増大する一方、優れた外国人研究者が我が国に集まりにくく「知の空洞化」が懸念
- ・我が国の博士課程の教育機能の国際的に見た強化が必要

多様な研究人材の能力発揮、研究への専念

- ・研究人材の流動性が依然として低く、多様な人材が能力業績に応じ適切に処遇される環境が不十分
- ・研究に専念できる支援体制が不十分、研究施設・設備も一層の整備が課題
- ・女性研究者、高齢研究者、外国人研究者、若手研究者など、多様な研究人材が能力を発揮できる環境が不十分で、我が国全体の研究活力の向上への支障が懸念

ニーズの急速な変化の下での研究人材の需給

- ・大学等の人材養成と科学技術の急速な発展・社会のニーズの変化に基づく人材の需要が必ずしも適切に対応しておらず、人材需給の不均衡が懸念

我が国の国際競争力を高めるための改革方策

改革に当たっての留意点

- 関係施策の体系的推進
- 明確な目標設定と重点的取組み
- 法人化のメリットを生かした自主的取組み
- 大学、産業界等の協力
- 長期的視点に立った人材養成とのバランス

改革の方向性

世界水準の研究人材養成機能の整備

多様な人材が能力を発揮でき、研究に専念できる環境の実現

急速に変化する需要に対応する研究人材の機動的供給メカニズムの導入

具体的な改革方策

○本格的な国際的研究環境の導入による国際競争力ある研究人材養成拠点の整備（トップレベルの外国人研究者の受入れ、海外機関と連携した人材養成、英語環境を含む世界水準の研究環境の構築）
海外一流機関への派遣を通じた人材養成 **本格的な国際的研究環境の実現**

能力・業績を適切に評価し処遇に反映する透明・公正な人事システムの構築、多様性向上に向けた自主的目標・計画の策定 **多様性向上計画の策定**

競争的資金による研究支援者の確保、知財人材等の養成、研究施設・設備の整備
出産・育児後の研究継続のための研究費・特別研究員の弾力的運用、復帰支援
優れた高齢研究者の定年後の研究継続、外国人研究者の積極的受入れ
ポストドクターへの多様な支援、多様なキャリア・パス構築（日本型テニュア制度の定着）
柔軟な人材養成システムの確立

○社会のニーズに対応した柔軟な人材養成システム
○新興分野の人材養成ニーズの発信と産学パートナーシップの確立
○他分野からの参入を支援する再教育の充実、モデルカリキュラムの開発
様々な分野の融合等による新分野の創出に向けた人材養成、萌芽的研究推進などの取組み

人材を活かす社会環境の実現

優れた研究人材の活躍の場が多様な分野で確保される社会
研究者・技術者等の創造的活動が適切に評価される社会
失敗をおそれず再チャレンジすることが奨励される社会